

## 最優秀賞

神奈川県社会福祉協議会会長賞

### 高齢者の地域支援について

厚木市立依知中学校

二年 木下 永 琥

僕の祖母は七十八歳です。祖父が亡くなってから一人暮らしをしています。自転車で買い物に行ったり、庭で野菜を育てたりしています。僕達が遊びに行くところ飯を作ってくれたりいっしょに散歩に行ったりしてくれます。また僕の野球の大会を暑い中応援しに来てくれます。僕の祖母は元気いっぱいです。

夏休みに入っすぐのことです。いつものように自転車で出かけていたら、出会い頭にバイク事故に遭いました。幸い足の骨折ですみましたが、一カ月入院することになりました。事故のことを聞いた時は、とてもびっくりしました。いつも元気な祖母が入院するなんて想像もありませんでした。でも一カ月の入院中に歩けるようにリハビリをしてくれるとのことな

のでひとまず安心しました。

入院後、祖母の家は一カ月留守になります。留守にしておいて大丈夫なのか心配でした。空き巣に入られるのではないか、一生懸命育ててきた野菜やお花が枯れるのではないか、僕が代わりにやりたくても遠くへ行けません。そんな中、家族で祖母の家の様子を見に行くと野菜もお花もとても元気でした。近所の人が僕達がいるのに気づき、訪ねてきて「入院したと聞いたから庭の水やりをやっておいたよ」「退院するまで水やりをするから気にしないでいいわよ」と言ってくれました。また、別の日には民生委員の人が様子をみに訪ねに来てくれました。僕は民生委員というものを知らなかったので調べてみました。民生委員とは地域生活を援助、相談にのってくれる役割を担っていると書いてありました。支援が必要な家庭、特に単身で生活する高齢者の家庭に定期的に訪問し、様子を見たり相談にのってくれたりするとのことです。僕は祖母が入院するまで、民生委員の存在を知らなかったし、祖母がそのような支援を受けていたことも知りませんでした。祖母が一人で元気で暮らしていると思っていました。近所の方や民生委員の支援があつてこそ一人でも安心して暮らせていたんだと気づきました。

次に退院後の生活についてです。祖母に介護認定の話が持ち上がりました。介護認定については学校の授業やニュースなどで耳にしましたが、僕の身近なものではありませんでした。自分の祖母が利用することとなり、あらためて、制度について調べてみました。四十歳以上の人は、健康保険料の他に介護保険料を支払うこと、その集めたお金で介護認定を受けた人が、

必要なサービスが受けられること、介護認定には要支援、要介護の七つのレベルがあるということが分かりました。祖母は今のところ自分のことは自分でできるので要支援の二か三が貰えるのではないかと話でした。

今回の祖母の入院にあたり、様々なことを知ることができました。祖母が元気で一人暮らしができるのは近所の方の支援だったり、民生委員が見守ってくれたりしていたこと、介護認定を受け、必要な支援を安価で受けられること、何気なく生活している中に様々な支援があることに気付くことができました。これから益々高齢化が進み、僕が成人するころには、日本は高齢者で溢れると聞きます。これから高齢者が自立して生活できる支援体制が充実していけばいいなと思いました。僕も地域住民のひとりとして、支えていける立場になれるよう、努力していきたいと思います。